



サキホコレ 君の勇姿よ雪原に

第79回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会

## あきた鹿角国スポ2025

開催地 秋田県鹿角市 2/13(木) ▶ 2/16(日)



秋田県花輪スキー場にて2025年2月13日から2月16日の4日間にわたり開催されました。北海道選手団は押切敬司総監督以下、総務1名、監督・コーチ・トレーナー15名、選手59名、計76名が全国トップレベルの力や技術をもった選手と連日、熱戦を繰り広げました。

大会開催に当たり、多くのご支援やご尽力いただきました関係者の皆様には心から感謝申し上げます。

監督・コーチ・トレーナーの指導支援により選手皆さんが実力を発揮し存分に活躍したことで、男女総合成績は162点とスキー競技会での天皇杯6連覇を達成、また、女子選手の連日の活躍により女子総合成績54点と皇后杯を授与する偉業を達成することができました。

### 北海道スキー選手団（成績）

#### スペシャルジャンプ

【成年男子A組】2位 竹花大松（土屋ホーム）6位 工藤漱太（雪印メグミルクスキー部）8位 池田龍生（雪印メグミルクスキー部）

【成年男子B組】4位 渡部陸太（東京美装グループスキー部）

【少年男子組】1位 三上託摩（余市紅志高等学校）2位 岡部凛太郎（北海道下川商業高等学校）3位 姫野蒼大（札幌市立前田中学校）5位 高橋劉成（北海道下川商業高等学校）6位 長谷川琉己（下川ジャンプ少年団）

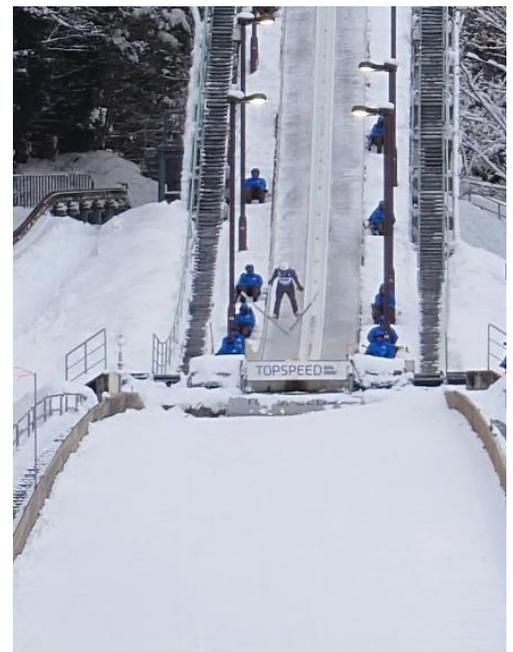
10位 西田蓮太郎（北海道下川商業高等学校）

#### ノルディックコンバインド

【成年男子A組】8位 千葉大輝（日本大学）9位 千葉悠希（サッポロノルディックスキークラブ）19位 高田雄生（東海大学）

【成年男子B組】2位 湊裕介（エイム）

【少年男子組】6位 姫野蒼大（札幌市立前田中学校）



## ジャイアントスラローム

【成年男子A組】7位 今村心温（日本体育大学）19位 高佑樹（立命館大学）23位 進藤拓海（北翔大学）

【成年男子B組】1位 新賢範（Brain）11位 加藤優（北海道旭川養護学校）13位 成田伊織（ルスツリゾート）

【成年男子C組】2位 小林大郁（株式会社北海道銀行）9位 木内忠幸（小樽市消防本部）10位 木村 翔馬（札幌ステーションデンタル）

【少年男子組】1位 五十嵐暖（小樽双葉高等学校）3位 ブイチック 龍馬（東海大学付属札幌高等学校）7位 小林桂（東海大学付属札幌高等学校）8位 片山大斗（小樽双葉高等学校）21位 近藤快成（小樽双葉高等学校）DF 川久保皇佑（札幌市立陵北中学校）

【成年女子A組】3位 嘉屋美咲（日本体育大学）7位 山田悠可（日本体育大学）9位 押切葵（パドルクラブ）

【成年女子B組】10位 村松晶子（福井コンピューターアーキテクト）DF 山下夢（倶知安高等学校）

【少年女子組】1位 川田 千聖（北海道滝川西高等学校）6位 田野双葉（小樽双葉高等学校）25位 熊崎莉子（札幌第一高等学校）DF 石川歌葉（小樽双葉高等学校）

## クロスカンントリー

【成年男子A組】11位 森稟桜（自衛隊体育学校）17位 小池駿介（早稲田大学）21位 菊地哲（JR北海道スキー部）

【成年男子B組】3位 佐藤友樹（JR北海道スキー部）7位 蜂須賀優駿（JR北海道スキー部）8位 児玉宗史（JR北海道スキー部）

【少年男子組】1位 藤原天聖（恵庭南高校）3位 吉田頼生（美幌高校）4位 和久幹希（富良野高校）6位 船場凱安（倶知安高校）14位 松本聖也（美幌高校）21位 小池祥平（富良野高校）

【成年女子A組】2位 栃谷天寧（日本大学）3位 栃谷和（自衛隊体育学校）11位 小池梓（早稲田大学）【少年女子組】6位 金津美雪（富良野高校）14位 宮崎真衣（美幌高校）17位 菊池凜花（留萌高校）

24位 堀 陽央里（東川高校）

【成年男子組リレー】 2位 森稟桜・蜂須賀優駿・小池駿介・佐藤友樹

【少年男子組リレー】 1位 吉田頼生・和久幹希・小池祥平・藤原天聖

【女子組リレー】 4位 宮崎真衣・菊池凜花・栃谷天寧・栃谷和



## 第1回日韓中少年冬季スポーツ交流事業

＝スポーツ庁国庫補助事業＝

日本、韓国、中国の3か所の青少年が、スポーツ交流を通じて多様な考え方や異文化に触れる機会を創出し、東アジア地域の平和と友好に満ちた社会の構築に寄与する。

### アルペン選手団

【総監督】猿田和也

【監督】八木橋拓史・松浦理央

【選手】岩城憲史朗・川住駿介・金沢拓・安孫子晴真・成田悠隼・福井颯斗・森田匡・早川響人

佐藤まのあ・尾崎カンナ・広田紗良・田澤李悦 八木橋乙葉・堤柚葵・川田真凜・長谷川凜  
指導者（3名） 選手（16名）

第1回目として開催された日韓中青少年冬季スポーツ交流アルペンスキー競技は、江原道アルペンシアスキーリゾートにて行われました。日中の江原道は北海道より暖かく、終始我々にとっては過ごしやすい気候となりました。

現地到着日の翌日から2日間は、3カ国合同練習を実施。事前に監督者会議を行い3カ国のタイムスケジュールを確認し、当日のトレーニングを進行。練習中は、選手達が各々他国の選手へ積極的にコミ

ュニケーションを図っている様子を伺うことが出来ました。一緒にリフトに乗ったりするなどして直接話しを交わすほか、SNSを互いに交換し合う様子は、現代ならではの親交の結び方だと感じます。前半は慌ただしかったものの、通訳の方々のサポートも手厚く、徐々に各国の考えや特性も如実に捉えることが出来ました。



レース概要は、前日の監督者会議にて2回戦のベストタイム採用と決定。スタート順は、シードごとにドローをしました。本番当日、自国とは少し違う進行や大会セットに対し、選手達は各々臨機応変に準備を整えてスタートしていきました。レース中は3カ国ともに集中し、程よい緊張感の中取り組めていたと思います。

結果については各個人、日本チームの中での順位や3カ国合わせての順位について、選手達なりに色々なことを感じ取っていたかと思います。大会終了後は、3カ国ともゲレンデ下に集合しペナントを交換。選手・指導者ともに励まし合い、記念撮影後も交流を交わしました。公式試合翌日は、ソウル特別市へ移動。

555mのソウルスカイに登り、ロッテワールドにて各自ショッピング。忙しいスケジュールをこなしてきましたが、アルペンチームも文化探訪に愉悦することができました。

夕方は、歓送夕食会のためロッテホテルワールドへ。全競技合わせて444名の選手団がすっぽり入る大きな夕食ホールを用意していただきました。

開幕の挨拶後すぐに各国の出し物が始まり、アルペンチームもこれまで空き時間に練習をしてきたダンスを披

露。ステージ下からの花火や大きなカメラ器具とスクリーン映像は立派で、ここまで準備してくださった

役員の皆様には本当に感謝いたします。

次年度の交流事業は北海道開催予定と伺っております。

今後の交流事業でも互いに手を差し伸べあって親睦を深め、更なる異文化理解に繋がることを祈っております。

結びに、本交流に向けご準備いただきました開催地国の大韓体育会の皆様に深く感謝申し上げ、ご支援ご協力い

ただきました各関係者の皆様にも心より御礼申し上げます。



## クロスカントリー選手団

【総監督】 古川巧

【監督】 青嶋湧士 福田旭

【選手】 馬場琥太郎・二階堂清矢・中村昌暉・押尾友晴・藤沢頼・松下新

佐藤由奈 永易美咲 岩佐 和奏 川邊空愛 越田月紫 浜頭冬和

指導者（3名） 選手（12名）

クロスカントリーチームは、引率3名、選手12名の参加でした。初日は、新千歳空港から平昌まで1日で移動しました。平昌到着が21時を過ぎていましたが、韓国の総監督が待っていてくださり、日程の確認や競技について打ち合わせをしました。翌日から2日間、日韓中の選手が集まり、交流をしました。内容は、各国1名ずつ3名1組を作り、会話をしながら45分間走るとい

うものです。英語や母国語を交え、交流していました。また、自分たちでスプリントレースやリレーを始めるなど、事業の目的をしっかりと意識していると感じました。4日目には、フリー競技で公式試合を行いました。男子の中村選手が1位、女子の佐藤選手が2位、川邊選手が3位と、交流の中でも日本選手団の強さを発揮できたと思います。また、実際にオリンピックが開催されたコースで走れたこと、海外の選手





とレースをしたことで、世界に出て活躍したいと改めて感じた選手も多くいました。選手にとって、とても良い経験になりました。

事業を通して、とくに印象的だったことは、韓国側のたくさんの「おもてなし」です。コースに始めて行った時には、スタンドの内部の説明をしていただきました。普段見ることのできないジュリー室や計時計算の機械も見ることができ、日本との違いを感じました。また、平昌オリンピックの時に使用された表彰部屋に案内された

時の、選手たちの目の輝きは忘れられません。公式試合のウォーミングアップ時には、韓国の曲だけではなく、日本・中国の曲も流してくれたり、食事で辛いものを出さずに食べやすい味付けにしてくれたり、WAX作業をする道具や台を全て用意してくれるなど、細かいところにも気を配っていただきました。歓送夕食会での、料理や演出からも、日本・中国の選手に楽しんでもらおうという気持ちが伝わり、感動しました。クロスカントリースキーチームは、「ジャンボリミッキー！」を踊り、自



分たちだけではなく、団長の日本スポーツ協会専務理事の森岡さんや、韓国や中国の選手にも壇上に上がってもらい、踊りました。

本事業を終え感じたことは、言葉が通じなくても、友情を育むことができるということです。積極的にコミュニケーションをとっている中学生を見て、人生の選択肢が広がったと確信しました。選手には、この経験を忘れず、世界を目指すきっかけにしてもらえればと思います。

最後になりますが、大韓体育会を始め、日本スポーツ協会、北海道スポーツ協会、北海道スキー連盟の皆様には大変お世話になりました。指導者も含め、選手全員が思い出深いものになりました。今年度は、北海道開催の予定ということで、昨年度以上の意義深い事業になるよう祈念しております。



## 北海道スキー連盟オフィシャルスポンサーシッププログラム

北海道スキー連盟では、スポーツ推進に関する事業を行い、スポーツを振興して、道民の体力向上とスポーツ精神の高揚を図ることを目的に活動をしております。この目的を達成するために、マーケティング委員会では「北海道スキー連盟オフィシャルスポンサーシッププログラム」として、北海道スキー選手権大会、強化合宿、普及事業等に活用する為に企業様にセールスを行い、2024-2025 シーズンは、8社よりプログラムにご参加いただきました。

本連盟の活動へご賛同いただきました、スポンサー、ご寄附を賜りました各社、皆様に厚くお礼申し上げます。

### SAH Official Sponsors



**JAPAN  
AIRLINES**



未来は、ミルクの中にある。  
**雪印メグミルク**

 **北海道エネルギー**



 **ウインドワード**

 **清水建設**

 **MARUI GAS&OIL**

### SAH Bib Sponsors

Ski Jumping / Nordic Combined



**JAPAN  
AIRLINES**

Freestyle

**北海道新聞社**

#### 【寄付金者様】

株式会社エゾデン、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、アサヒ飲料株式会社



北海道スキー選手権大会

競技名	種目	開催日	開催地
ジャンプ	ノーマルヒル	2024年12月20日	名寄ピヤシリシャンツェ
コンバインド	前半ジャンプ	2024年12月20日	名寄ピヤシリシャンツェ
	後半クロスカントリー	2024年12月20日	名寄健康の森競技場
クロスカントリー	クラシカル	2025年1月16日	名寄健康の森競技場
	フリー	2025年1月17日	名寄健康の森競技場
	リレー	2025年1月18日	名寄健康の森競技場
アルペン	スラローム	2025年1月25日	朝里川温泉スキー場
	ジャイアントスラローム	2025年2月1日	カムイスキーリンクス
	スーパージャイアントスラローム	2025年2月24日	カムイスキーリンクス
マスターズ	ジャイアントスラローム	2025年2月11日	桂沢国設スキー場
スノーボード	ハーフパイプ	2025年2月16日	さっぽろばんけいスキー場
	アルペンパラレルスラローム	2025年2月27日	国設阿寒湖畔スキー場
フリースタイル	ハーフパイプ	2025年2月16日	さっぽろばんけいスキー場
	エアリアル	2025年2月22日	美深スキー場
	デュアルモーグル	2025年2月23日	さっぽろばんけいスキー場
	モーグル	2025年2月24日	さっぽろばんけいスキー場
技術選手権大会	北海道スキー技術選手権大会	2025年1月31日 ～2月2日	ルスツリゾート
	北海道マスターズスキー 技術選手権大会	2025年2月15日 ～2月16日	ルスツリゾート
	北海道ジュニアスキー 技術選手権大会	2025年3月15日 ～3月16日	びっぷスキー場
	北海道スノーボード 技術選手権大会	2025年1月18日 ～1月19日	サップロテイネススキー場
	北海道ジュニアスノーボード 技術選手権大会	2025年1月18日 ～1月19日	サップロテイネススキー場

## SAH Enjoy Powder Snow

「FIS Bring Children to the Snow～子供たちを雪の世界へ～」という事業が2024-2025シーズンから行わないと発表されましたが、本連盟としては、地域と共にスノースポーツの魅力を子供たちに広めていきたいという思いに変わりはなく、北海道スキー連盟普及振興事業「SAH Enjoy Powder Snow」という事業名で、引き続き普及振興事業を実施いたしました。

本連盟加盟団体 66 団体と道内の総合型スポーツクラブなどに募集を行い、9 団体から申込みがありました。実施にあたり、これまでの実績や企画内容をマーケティング委員会にて精査し、主催事業として6 か所への助成金と、協力イベントとして3 か所を認定し開催いたしました。

1. [石狩／札幌] Enjoy Powder Snow in はじめてのスキー入門
2. [苫前] Enjoy Powder Snow in 苫前三角点スキー場
3. [沼田] Enjoy Powder Snow in 沼田町第74回町民スキー大会
4. [札幌] Enjoy Powder Snow in インクルーシブスキー イン モイワヤマ
5. [小樽] Enjoy Powder Snow in おたる
6. [中川] Enjoy Powder Snow in 中川 スノーフェスタ
- 協力イベント 7. [枝幸] Enjoy Powder Snow in 枝幸三笠山・ゆきフェス 2024
- 協力イベント 8. [稚内] Enjoy Powder Snow in こまどりスキー場
- 協力イベント 9. [留萌] Enjoy Powder Snow in 雪育デイキャンプ in るもい



本連盟にご協力・ご賛同いただきました全道各地の団体及び各地のスキー連盟様に厚くお礼申し上げます。活動の詳細についてはホームページより閲覧できます。

2025年2月22日 札幌藻岩山スキー場 開催

北海道障害者スキー連盟のご協力をいただき、知的障がいと身体障がいのお子様を対象に、スキー指導を行いました。車椅子使用のお子様には、バイスキー（チェアスキー）を使用してスキーをおこない、また、札幌在住のパラリンピアン狩野亮氏にご来場いただき、デモンストレーション、子供達と一緒に滑走、ひとり一人にアドバイスを頂きました。同日開催で当団体のジュニアスキー教室も併催し、同イベント参加者と交流を図りました。

障がいの有無に関わらないインクルーシブな活動を意識して開催することができました。

スキーの技術レベルは様々でしたので、インストラクターの試行錯誤はありましたが、参加者の皆さんは、とても笑顔でスキーを楽しんでおりました。イベントの様子を見守られていた親御様が大変感激されていたのが大変印象に残っており、このような事業をおこなう意義を感じました。

また、参加者全員と狩野氏が触れ合う時間では、丁寧に子供達に接していただき、貴重な体験であると共に、大変貴重な時間であったと思います。

参加者の安全を第一に配慮し、個々の障がい特性やレベルに合わせた指導は、当団体にとっても大きな挑戦となっています。指導する立場ではありますが、多くの学び、やりがいを感じております。何よりも参加いただく子供達や親御様の笑顔が、我々のエネルギーの源になっており、大変有意義な事業と受け止めております。

今後も引き続き開催できるように運営してまいりますので皆様のご支援、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

NPO 法人サッポロモイワスポーツクラブ

代表理事 古谷正臣



## Enjoy Powder Snow in 中川 スノーフェスタ

我々、総合型地域スポーツクラブ「なかがわスポーツくらぶ」は、人口 1200 人の小さな町でスポーツ環境の構築や子供の社会教育を通じて地域に貢献するべく、活動しています。

その様な中で、冬のスポーツを通じて地域住民の健康づくりを目指し、興味関心を促すこと冬期に乏しくなるイベントの新たな契機とすることを理由に令和 7 年 3 月 2 日 (日)「Enjoy Powder Snow in 中川 スノーフェスタ」の開催に至りました。



筆者である私自身、昨年度の 8 月に中川町の地域おこし協力隊として移住して来た為、中川町のスキー場が稼働している姿を見たことがない状態からイベントの計画が始まり、手探りながらも良いものになるようにと想像に想像を膨らませて計画を進めた次第です。

雪が積もる頃には、小学生のスキー授業の様子を参考に場内の活用方法を考え、普段は使わないような場所も安全面を考慮して、プログラム内容の選定をいたしました。

プログラム内容は主に「スキーマの記録会、親子レクリエーション、子どもレクリエーション、スノーモービル、尻滑りゾーンの自由滑り、宝探し」とし、スキーマ記録会では中川スキー少年団の指導者が運営側として支援していただき、レース形式でランキングを付ける方式を取らずに自己ベストに最もタイムを縮めることができた選手を優秀者といたしました。

レクリエーションについては、「なかがわスポーツくらぶ」で取り組んでいる運動指導内容である、コーディネーショントレーニングやバルシューレを用いて保護者や友人と雪上という日常とは違う感覚でレクリエーションとして楽しんでいただけました。

プログラムの最後には、中川町のゆるキャラ「じゅえる」が描かれたカードを宝カードとして、雪の中から掘り当てるというルールで宝探しを行い、真剣な表情の中にも笑顔が垣間見え、保護者の皆様には良いシャッターチャンスを提供できたのではないかと思います。各々どのプログラムに関しても、住民の皆様準備から当日のサポートまで、ご尽力をしていただき盛況のうちに閉会することができました。今後も引き続き、中川町らしく「なかがわスポーツくらぶ」らしいスノーフェスタをつくるべく、スモールアップ「小さいことから大きいことに」をテーマに盛大で親しみのあるイベントになるよう努めてまいります。



なかがわスポーツくらぶ  
渡辺 隼矢

発行

公益財団法人 北海道スキー連盟 〒062-0904 北海道札幌市豊平区豊平 4 条 5 丁目 1 - 1 8  
TEL: 011-820-1780 FAX: 011-820-1781 URL: <https://www.ski-hokkaido.jp/>